



Title	冬季茶話會
Author(s)	
Citation	懷德. 1924, 1, p. 33-33
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88689
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

冬季茶話會

大正十三年二月十一日、紀元節の佳辰を卜し、懷德堂講堂に於て、堂友會冬季茶話會を開催せり。先づ小講堂には、中井家秘藏の、履軒先生遺著、七經逢原七經彫題の原本數十冊と、辛丑壽卷と題する、竹山先生の萱堂七十壽筵の際、社中門人、數十名の賀詩祝文を裝緝したる卷物を陳列して、來會者の展覽に供し、定刻午後一時に至るや、擊析の聲に應じて着席せるもの、會長、松山先生、名譽會員、稻束猛、財津愛象、中井

木菟麿三先生、其他堂友四十餘名にして、幹事、岡田玄碩開會の挨拶を述べ、次で松山會長「宋學の先驅としての梁肅」と題する講演、名譽會員、中井先生の祝辭あり、夫れより茶を啜り、菓を啖ふて、互に談笑しました堂友今西茂喜文字傳來期の所感を述べ、更に夏季の茶話會には、堂友各自所藏の同時代先儒の卷軸等を持ち寄り展覽すべきことなど申合せ、和氣霽々の裏に午後四時散會せり。

春季探勝會

大正十三年三月二十一日春季皇靈祭の日を選び堂友會春季探勝會を催したり當日午前七時三十分大阪驛に集合せるもの松山會長以下二十一名八時發急行列車にて京都に向ひ伊藤仁齋先生の舊址古義堂に至る堂は屢回祿の災に遭ひ舊容復た觀るべからざるも書庫獨巋然として舊時の面目を存せり先生の裔孫伊藤顯也氏堂友一行の爲め特に其の邸宅を開放して第一陳列場となし滋

野小學校を第二陳列場として戸田徳治氏邸を第三陳列場に充て先世諸先生の遺著遺墨遺愛品等を陳列して一行を歓迎せられたり。遺著の重なるものは仁齋東涯蘭嶠三先生の手稿本及東所先生の編定に係る紹述雜鈔二十七種（先遊傳、詩經要領、估伴漫錄、集語鈔、古官、宮殿門考、宮室名號、閱史隨鈔、國事雜誌、考古雜編倭漢通信雜誌、朝鮮雜誌、鷄林軍記五卷、朝鮮諺文字

小沼量平